# AI理論と実践講座

## 本日のAgenda

- AIを学ぶために必要な基礎知識
- 線形回帰
- Pythonによる線形回帰

※PCAについては次回に回させてください

# AIを学ぶために必要な基礎知識

### **English and Googling Skill**

英語の情報がオリジナルで品質が高い

情報が日本語化されるのを待っていては遅すぎる (SPEED)

オリジナルに近い情報が正確 (QUALITY)

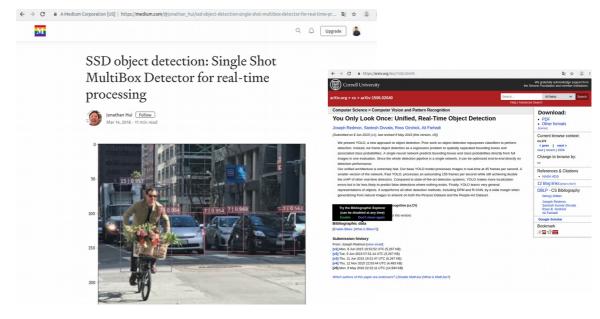
英語の情報が圧倒的に多い (QUANTITY)

#### オススメ

コンテンツプラットフォーム Mediumがオススメ 良質の解説記事が多い (専門知識がなくても読める)

原論文にあたりたいときにはarxivにほとんどある 最近は読みやすい論文が多い

全部読み切る必要はなく、途中までなんとなく読むだけでも十 分役に立つ



#### オススメ2

英語で受講できるe-learningには良質なものがあります Coursera, Udacitty, edX etc.



#### プログラミング

プログラムを作る敷居は非常に低くなった

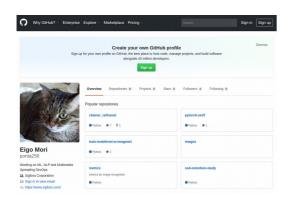
PythonならExcel学ぶのと同じ感覚で学べる

最初の入門部分は易しい入門書などを一通りした方が早い (わからないところはどんどん飛ばす)

あとは人のコードをコピーしたり、GitHubから落としてきたり



#### プログラムが作れるようになると世界が変わります



### 数学

#### 確率と統計に関してはぜひとも学びたい 入門書を繰り返し読むことがオススメ

線形代数と微積分は理論的な背景を理解したり、論文を読むときには必要実際にプログラムを開発する現場ではPythonのライブラリなどにすでに組み込み済みでマストの知識ではない

高校レベルの線形代数と微積分でも十分以上に役に立つ

これも入門書を繰り返し読むことがオススメ

$$\int T(x) \cdot \frac{\partial}{\partial \theta} f(x,\theta) dx = M \left[ T(\xi) \cdot \frac{\partial}{\partial \theta} \ln L(\xi,\theta) \right] \int_{\partial \theta}^{\partial \theta} \int_{\partial$$

# 線形回帰

### 機械学習

一般にAIは**入力データ**に対し、何らかの基準で**判断を行 い、推論を出力**する

エキスパートシステムのような手法では、その基準を人間 が与えるのに対し、機械学習ではその基準をコンピュータ が自ら学ぶ

コンピュータにどう学ばせたらいいか?

### 単回帰分析

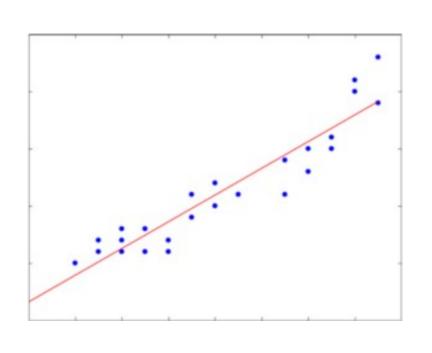
単回帰分析はある変数(X)から,もう一方の変数(Y)を予測する

(相関分析は変数間にどのくらいの関係性があるのかを調べる)

Yを目的変数、Xを説明変数と呼ぶ

#### 目的変数と説明変数の選択

予測したい目的変数に相関がありそうな説明変数を選ぶ グラフ化することであらかじめ相関性が予想できる



年齢(X)と年収(Y) 部屋数(X)と家賃(Y) 体重(X)と身長(Y) 体重(X)とアルコール耐性(Y)

### 単回帰分析のモデル

Y = aX + b 学習データからaとbを求める 未知のXに対してもYが求まる (年齢入れれば年収が求まる)

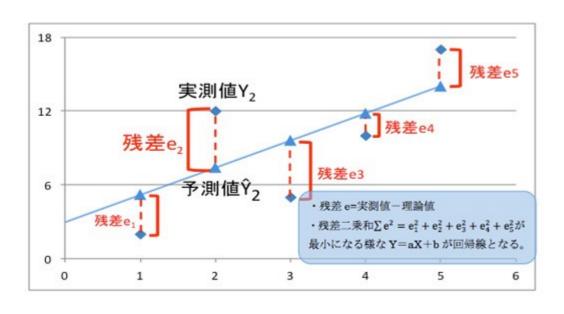
誤差がゼロのaとbが求まるときには単純に方程式を解くので機械学習は不要 (現実世界にはほぼない)

相関はありそうだけど誤差はあるものに、最もそれっぽいaと bを見つけるのが単回帰分析の機械学習

#### 誤差を決める

機械学習は定めた誤差(LOSS)が最小になるようにパラメータを決定する

誤差の定義を決めることは極めて重要



単回帰分析の誤差定義

https://www.stat.go.jp/koukou/howto/process/p4\_3\_2\_5.html

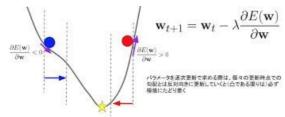
#### 単回帰分析のアルゴリズム

#### 最急降下法

最急降下法は以下の手順で処理を進めます。

- 1. 任意のa, bを設定する
- 2. Loss(a, b)が最小となるようにa, bを動かす (偏微分)
- 3. a, bを更新して2.のプロセスへ戻る

aとbを少しずつ動かしながら最適な値を見つける この方法はDeep Learningなども同じ



#### 最急降下法の実装

```
import numpy as np
import matplotlib.pyplot as plt
from sklearn.datasets import load boston
boston = load boston()
x = boston['data'] #物件の情報
x = x[:, 5]
y = boston['target'] # 家賃
alpha = 0.04
itera = 10000
cost = np.zeros(itera)
b = 1 #bの初期値
a = 1 #aの初期値
m = len(y)
for i in range(itera):
  cost[i] = (1/(2*m))*np.sum(np.square(b+a*x-y))
  b = b - alpha*(1/(m))*np.sum(b+a*x-y)
  a = a - alpha*(1/(m))*np.sum((b+a*x-y)*x)
print(b, a)
```

#### 重回帰分析

単回帰分析 Y=aX+b重回帰分析  $Y=b_1X_1+b_2X_2+b_3X_3+b_4X_4\cdot\cdot\cdot\cdot+b_0$ 

単回帰が説明変数1つを利用するのに対し、重回帰は複数 の説明変数を利用する



Pythonによる線形回帰とPCA

#### scikit-learnによる回帰分析

```
from sklearn.datasets import load_boston from sklearn.linear_model import LinearRegression boston = load_boston()

x = boston['data'] # 物件の情報
y = boston['target'] # 家賃

x = x[:, [5]] # 平均部屋数

model = LinearRegression()
model.fit(x_train, y_train)

a = model.coef_
b = model.intercept_

y out = model.predict([[7.0]])
```

### 演習

問1.

部屋数の代わりにNOx濃度を説明変数として単回帰分析を行ってください問2.

散布図を作って回帰曲線を描画してください

問3.

すべての特徴量を説明変数として重回帰分析を行ってください

問4.

自動車データセットhttp://archive.ics.uci.edu/ml/datasets/Automobile を使って、engine-sizeを用いた単回帰分析およびlength, width, heightを用いた重回帰分析を行ってください

Q&A